

会員の叙勲

瑞宝中綬章(教育研究功労) 出原敏孝 名誉教授 (元)遠赤外領域センター教授

瑞宝中綬章(教育研究功労) 埜村 守 名誉教授 (元)材料開発工学教授

出原敏孝先生の叙勲に寄せて

遠赤外領域センター教授 光 藤 誠太郎

私が福井大学に着任し、応用物理学科の出原研究室に参加するようになったのが1998年の3月で、早いもので20年以上の歳月が流れました。出原先生の業績の一番のものは高周波ジャイロトロンの開発と応用研究です。私が赴任した時にはすでに福井大学のジャイロトロン発振器は、世界トップクラスの高周波化を達成し、この分野で世界をけん引するポジションにありました。私は着任後、電子スピン共鳴測定にジャイロトロンを応用する研究を始めるとともに、ジャイロトロン開発にも参加しました。当時は高周波ジャイロトロンに用いる超電導磁石を液体ヘリウムで冷却する必要があり、朝から冷却を開始しても液体ヘリウムが溜まって実験を開始できるのは夕方からであった。そこからジャイロトロンの実験を開始して、液体ヘリウムがなくなる明け方まで実験を行うというのが通常で、学生たちと朝まで実験し、だいたいチャンピオンデータを得られるのは半分寝ぼけた明け方であったように思います。一方出原先生は、新聞の配達が遅いと文句を言うほどの超朝型で、実験終盤の早朝に状況を見に実験室に来られるといった感じだったと思います。そういった研究活動のなか遠赤外領域開発研究センターの設立にも尽力されていました。私も文科省への説明資料のポンチ絵を出原先生の書いた要求文書をもとに作成し、センター設置後ずっと続く文科省への要求資料や報告資料の作成のやり方を学んだのもその頃でした。そして1999年4月に文科省から遠赤外領域開発研究センターの設置が認められ、センターが設立され、出原先生が初代のセンター長となりました。センターの20周年写真集の冒頭で出原先生はセンター設立の感想として「これを契機として、センターの発展の日々とこれを支えるための苦汁の日々が始まることとなる。」と書かれていますが、楽しいことの方が多か

ったのではないかと思います。

センター設立後はセンターの建屋が2002年に竣工し研究のアクティビティーがますます広がっていきました。また出原先生は外国の研究者との親交が厚く、センターに外国人の招へい教授のポストを得ることができ、年間数名の外国人研究者がセンターに常駐して国際共同研究を進める環境が整いました。そのため出原先生も私も大学の夏休み期間はほぼ海外の研究所で過ごす日々を送ってきましたが、今年度は新型コロナウイルスにより海外渡航が禁止され、何十年か振りにゆっくり日本の夏を過ごす一年となりました。



世界最高周波数を更新したジャイロトロンと出原先生
(2011年5月撮影)